伝統の美がひかる！ 江戸時代の天才絵師　全５巻

ほるぷ出版
HoLP Shuppan Publications, Ltd.

人生年表と人柄、作風を人物相関図と共に紹介

北斎かわら版

世界が認めるスーパー絵師

世界的に知られる日本を代表する絵師

葛飾北斎は、アメリカの雑誌「ライフ」の「この一〇〇年期間で最も偉大な業績を残した世界の一〇〇人」に、日本からただひとり選ばれました。北斎は、世界が認めるスーパー絵師なのです。

北斎のすごさは、常に進化し続けたところです。代表作「富嶽三十六景」や「北斎漫画」で、亡くなる3カ月前にとゞめたいという「富士越龍図」。北斎はとしをとるほど、ますゝゞん自由に筆を動かしています。

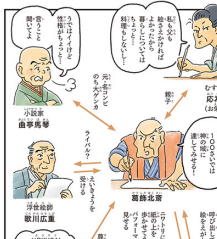
デビューは早いが個性を発揮できず苦戦

幼いころから絵が好きだった北斎は、19さいで役者絵・歌舞伎役者を描く浮世絵師・勝川春章の弟子になります。そして翌年に、絵師デビュー。それから約5年間、役者絵や人気読のさし絵などを描く中、自分の絵に悩みあったのが、この時期に西洋の絵をはじめさまざまな絵を学びました。

師の春章亡くなると、北斎は35さいで勝川派からはなれ、独自の画風を作り上げていきます。40代で小説のさし絵や有名に、50代で小説「北斎漫画」などの絵手本（絵の手本）を中心に活動し、人気絵師となっていきます。

72さいで大ヒット 満足せずにうつをみがく

「富嶽三十六景」が大ヒットし満足せず、「90さいで絵を極め、100さいで神のようなる域に達するだろう」と、記しています。80さいこえかゝりて、なるまでは、向上心を絵の世界をえがきました。北斎はそうした絵に満足せず、お金の管理も苦手でした。絵への一こだわりだけは強く、そのせいでトラブルも多かったといいます。でもそれだけ北斎は、絵に集中していたのです。だからこそ、世界が認めるような作品を生み出せたのでしょう。


私もいろいろよかったけれど、春さんにだけは負けたくないわ！
「北斎」とはワタシのペンネーム
むすめ 応為（お栄）
小林清 由夢馬琴
ライバル
弟子
葛飾北斎
浮世絵師 歌川広重
ていたらくを見せるな
ヒック！
呼び捨て
絵をよかせる
ヒック！
ヒック！
ヒック！

代表作を大判で迫力満点に掲載

『富嶽三十六景 甲州石和原』
『富嶽三十六景』は当初、この作品のように中景（ターゲットで示された長方形の部分）だけを描く「長版」で作る予定でした。

『富嶽三十六景 尾張不二見原』
平坦には広がるなかに美しい富士が輝く。おりの民へかくる通して三角形の金生山が美えた形のなかなかなかの形ゆえに輝かしく。

『富嶽三十六景 駿州江尻』
目に見えない風を、まさに水の姿や動感（風船のような球、メル作品）、旅人の姿勢などで表現。月明かり富士山は、とくっきりしています。

北斎の世界的けっさくの誕生！

浮世絵

冨嶽三十六景

北斎ならではのえがき方が完成した北斎の代表作にして世界的名画

『富嶽三十六景 凱風快晴』
「赤富士」と呼ばれる作品。富士山は、明治の文豪、夏目漏石が「こころ」の中で、「あれは、どこから眺めたのだろう。」と言ったほど、謎の多い作品です。

『富嶽三十六景 山下白雨』
頂上部を雲が覆う中腹にかけて、富士山の姿を浮彫にしています。天空は雷雨です。石下の山すそには雷鳴が鳴り、その下は雨と思われます。原題（表題）は、

江戸の入びと

北斎の「波」の進化

『おしおくりはとうりゃくのつ』
小倉百人一首を題材にした『おくのほそ道』。芭蕉の俳句をもとに、『おくのほそ道』の場面を絵から浮んだ北斎は、自分の世界に入ってきます。

荒波伊八節信義『頂に雪降』
頂を白く見えるように、雪の降りの中、北斎は、『富嶽三十六景』の『富士山』の頂上を白く描いています。

短い文章とイラストでわかりやすい！

絵手本

北斎漫画

北斎の遊び心がいっぱい
大たんな「ウケさ」絵が大集合

『北斎漫画 三編』より「屋敷作り」
伝説話のため、スメノミコトを思わさるような「屋敷作り」が、ばらばらマンガのように、ときかれています。

『北斎漫画 千編』より
『北斎漫画』にはいろいろな人物がとがかれていますが、そのほとんどは武士、人口の多い市ネりっぱこでしょう。

『北斎漫画 十二編』より「鯰」
鯰にびでるたとみえるとを通て、自にはあまりいる本ーーーケスにえがきおいています。だが、しかがあてーーるような形鯰は、およびの鯰鯰がふかやいっぶにちえません。

『北斎漫画 三編』より

『北斎漫画 八編』より
まるで怪獣さんのようなページ。屋敷の屋根に怪物ちゃっぷがかみ、どちらについてくぼさかでいます。

『北斎漫画 二編』より
イカやアアッのような怪物ちゃっぷちもかみ、クリンやザノのように怪鳥や動物を出とてえがいちのかをで思っています。

『北斎漫画 四編』より
江戸時代のウラ絵「浮世絵」をしてうかふスや、自来世界の油彩で深くえがき、人間の動きをかんえしてかいています。

『北斎漫画 三編』より
いおとりや、だが、はきすぎるえ、ひと、『北斎漫画』の『蓮中子』三編には、赤塚の工程を長しっ、『鯰』えしえるのようもんがかれています。

『北斎漫画 十編』より「太玉川一覧之図」
地名に「玉川」とつくものの名所を、一枚の絵にまとめたもの。『北斎漫画』には百景名所の名前の絵画が必のもれています。

『北斎漫画 七編』より「台詞秋曲の舞」
長が様ほるか、フキをかやややーっとの代わりにしていえ、ムとえ、アキ子ホ（ミ）かを見さやの。東の富士は1.5ーもの天さがにいます。

北斎が、『北斎漫画』やしたのが、『北斎漫画』です。ここでいう「漫画」とは、「ストーリーがない」ということ。「絵手本」とは、「絵のマンガ」ということです。「北斎漫画」は、「絵手本」でしたが、よく売られた絵編が作られ、自前時には、絵編が出ました。『北斎漫画』には、動物やゲ集等、建物、人物など約4000ほどが必ちれています。あくまでも絵手本なんだから、ユーモアたっぷりの動物にはなっていたのです。ユーモアたっぷりの動物にはなっていたのです。ユーモアたっぷりの動物にはなっていたのです。

職人の「スゴ技」がわかる！

作ってみよう！浮世絵ができるまで

分業で作る浮世絵には
さまざまな職人の技がつまっている

浮世絵のスゴ技

毛刷

かゃは彫師の技術力がためされる部分。特に生え際の「毛刷」は、かゃを1mm以下の細い線で描くために、最も難しい技でした。

喜多川歌麿
『青楼七小町 玉屋内 花紫 せきや てりは』

から摺り

絵の具をつけずに、版木に紙を乗し当てて摺り、紙にかりっとする効果。雲や霧、幽霊のかゃなどに使われました。

鈴木春信
『雪中相合傘』

ぼかし

『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』

ほかしには、下のように段の良の余分を調節してほかす「攻き下げぼかし」をはじめ、さまざまな方法があります。

雲母摺り

葉洲斎写楽
『大谷鬼次の奴江戸兵衛』

雲母（光たくのある結晶）の粉を使って、キラキラ感に仕上げる技法。のりをすった上から雲母の粉をまくなどします。

『富嶽三十六景』をはじめとする浮世絵は、木を彫って紙にすった版画です。絵師が自分の好きなように作るのではなく、注文を受けて制作し、売られる商品でした。

そんな浮世絵は、であるまで多くの人の手を必要とします。「絵在の出版」を企画し、「絵師」を選び、作業体を取り仕切る「版元」。「彫師」は、版木を作る職人。「摺師」は、版木をくぼ摺り、といった人びとです。

浮世絵の制作は、版元が絵師に下絵の制作を注文することから始まります。絵師は、ふだんは下絵を描いて版元に見せ、許可がでたら版下絵を作成します。彫師は版下絵から主版を作り、主版を墨だけで刷った校合紙を作ります。この校合紙に、絵師が色やすりの指示を書き、それに合わせて彫師が色ごとの版（色版）を彫ります。そして摺師が主版と色版を紙にすり重ねて、浮世絵を完成させます。

「ぼり」や「すり」には、高い技術が必要とされ、わずかやすり彫師の名前が入った浮世絵もあります。

絵師の仕事

下絵や版下絵をえがきます。「校合摺」ができると、「色さし」（色やすり方の指示をすること）を行います。

葛飾北斎一色でえがかれた版下絵（復元）。

分業で作られる浮世絵

摺師の仕事

色さしに従って、最初に、主版、次にうすい色やする最後のかさい色の順に、色版を重ねてすっていきます。

版木に絵の具をつけてから紙をのせ、ばれんですります。

彫師の仕事

版下絵をもとに「主版」をほり、墨一色で「校合摺」をすります。絵師の「色さ色の順に、色版を重ねてすっていきます。

版下絵を裏返して版木にはり、主版をほっていく。